

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調整費

事業名 現代陶芸美術館展示費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100(内103)

E-mail：c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 32,514 千円 (前年度予算額： 59,240 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	59,240	18,805	0	10,735	0	0	2,000	0	27,700
要求額	32,514	0	0	15,671	0	0	2,000	0	14,843
決定額	32,514	0	0	15,671	0	0	2,000	0	14,843

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・岐阜県現代陶芸美術館の収蔵品等を多角的視点から展示 (企画展[コレクション展])
- ・国内外からの借用作品による多彩なテーマの特別展示 (特別展)

(2) 事業内容

○特別展開催事業費

- ①「ロイヤル コペンハーゲンと北欧の煌めき」展 (近現代西洋の工芸) [巡回展]
令和8年4月4日(土)～6月21日(日)：68日間
- ②「吉田璋也のデザイン」展 (近現代日本の工芸) [共同企画]
令和8年7月11日(土)～9月27日(日)：68日間
- ③「セラミックス・ジャパン2」展 (現代日本の陶磁器) [巡回展 当館中心]
令和8年10月24日(土)～令和9年1月11日(日)：57日間
- ④「ishoken展」
令和9年1月30日(土)～3月14日(日)：38日間

○企画展 (コレクション展) 開催事業費

- ①「コレクション展」第1期
 - ・テーマ展：「美濃陶芸の系譜」展(4)(5)
 - ・コレクション・ハイライト、令和7年度新収蔵作品展
令和8年4月18日(土)～7月12日(日)
- ②「コレクション展」第2期
 - ・テーマ展
 - ・コレクション・ハイライト、令和7年度新収蔵作品展
令和8年9月～令和9年3月

○準備費

- ・令和9年度以降の特別展等の準備打合せ、印刷物制作、等

○デジタル・アーカイブ

- ・所蔵作品の写真や関連資料のデジタル化

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	100	講師謝金
旅費	1,459	職員旅費、講師等費用弁償
消耗品費	3,184	展示用消耗品費、配布用図録費
会議費	8	講師会議費
印刷製本費	0	印刷物制作
役務費	2,242	通信運搬費
委託料	6,821	展示業務、展示造作、印刷物制作、広告等委託料
使用料	0	会場借上料等
負担金	18,700	巡回展負担金
合計	32,514	

決定額の考え方

--

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

【特別展】

令和8年度の特別展では、近現代西洋の工芸の紹介（ロイヤル コペンハーゲンと北欧の煌めき展）、近現代日本の工芸デザイナーの再評価（吉田璋也のデザイン展）、現代日本の陶磁器の見直し（セラミックス・ジャパン2展）、地元の陶磁器研究・育成機関の成果の発信（ishoken展）と、様々なジャンルやテーマの展覧会を計画している。

- ①「ロイヤル コペンハーゲンと北欧の煌めき」展（近現代西洋の工芸）[巡回展]
- ②「吉田璋也のデザイン」展（近現代日本の工芸） [共同企画]
- ③「セラミックス・ジャパン2」展（近現代の陶磁器）[巡回展 当館中心]
- ④「ishoken展」（地元の陶磁器研究・育成機関の成果）[共同企画]

これらにより、新たな来館者層を獲得するとともに、県民の陶芸等芸術文化に関する知識・教養の向上と、地元の陶磁器産業の発展に寄与する。

【企画展（コレクション展）】

令和8年度の企画展では、当館のコレクションに基づいて、主に3つの観点から展覧会を計画している。

- (1) テーマ展：様々なテーマを設けて、当館のコレクションを紹介する。
特に、地元の岐阜県重要無形文化財保持者を昨年度に続いて紹介する。
- (2) コレクション・ハイライト：当館コレクションの逸品を展示するとともに、その特徴を紹介する。
- (3) 新収蔵作品展：令和7年度に新しく収蔵した作品をお披露目し、当館のコレクションでの位置づけも示す。

これらの展示により、県民をはじめ多くの方々に、当館コレクションの魅力を多角的に知っていただき、陶芸文化に様々な形で親しんでいけるようにする。特にコレクション・ハイライトによって、ぶらりと立ち寄った方が、いつでも当館所蔵の名品を鑑賞できることになる。

【展覧会準備】

令和7年度中に、令和8年度以降の特別展等の準備を進める。
これにより、令和8年度以降の特別展等を充実したものにす。

【デジタル・アーカイブ事業】

開館以来収集してきた所蔵作品の写真や関連資料のデジタル化を引き続き推進し、その成果に基づいて資料のデータベース化を目指す。

これにより、資料を展覧会や教育普及等の事業に活用するとともに、当館の事業の核にあたるコレクションを広く紹介する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	終期目標	達成率
	(R)	実績	目標	目標	(R)	
① 入館者数		86,605	34,000	35,700		105%

*令和6年度の入館者数は、3年に1度の「国際陶磁器フェスティバル美濃」の関係で、例年より多い。

○指標を設定することができない場合の理由

(これまでの取組内容と成果)

令和5年度	<p>○取組内容</p> <p>【特別展】 3本の特別展を開催。</p> <p>①「ハンガリー・現代陶芸展」 [自主企画] 令和5年4月22日(土)～7月2日(日)</p> <p>②「大地のこどもたち2023」展 [自主企画・教育普及事業] 令和5年7月29日(土)～8月27日(日)</p> <p>③「三島喜美代」展 [自主企画] 令和5年9月16日(土)～11月26日(日)</p> <p>④「フィンランド・ガラスアート」展・「ムーミン」展 [巡回展] 令和5年12月16日(土)～令和6年3月3日(日)</p> <p>【企画展 (コレクション展・常設展)】 3種の展覧会を2期にわたって開催した。</p> <p>①「THE GIFT 安藤基金コレクションから」</p> <p>②「コレクション展」 令和5年5月16日(土)～8月27日(日)</p> <p>③「コレクション展」 令和5年12月16日(土)～令和6年3月3日(日)</p> <p>○成果</p> <p>【特別展】 3本の特別展を開催。</p> <p>①「ハンガリー・現代陶芸展」 [自主企画] ハンガリーの現代陶芸の全体像を初めて紹介し、国際交流を推進した。</p> <p>②「大地のこどもたち2023」展 [自主企画・教育普及事業] 県内の子どもたちのやきもの作品を展示し、教育活動を推進した。</p> <p>③「三島喜美代」展 [自主企画] 岐阜ゆかりの現代造形的な作家の全体像を紹介した。</p> <p>④「フィンランド・ガラスアート」展・「ムーミン」展 [巡回展] 陶芸の隣接ジャンルのガラス造形と、フィンランドゆかりのムーミンの世界を紹介した。</p> <p>【企画展 (コレクション展・常設展)】 当館のコレクションの基本方針と魅力を紹介した。</p>
	<p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>

令和6
年度

○取組内容

【特別展】

4本の特別展を開催。

- ①「うつわの大中小」展 [自主企画・コレクション展]
令和6年3月16日(土)～5月25日(日)
- ②「リサ・ラーソン」展 [巡回展]
令和6年6月8日(土)～8月25日(日)
- ③「生誕130年 荒川豊蔵」展 [自主企画]
令和6年9月14日(土)～11月17日(日)
- ④「人間国宝 加藤孝造 追悼展」 [自主企画]
令和6年11月30日(土)～令和7年3月16日(日)

【企画展（コレクション展等）】

7種の展覧会を4期にわたって開催した。

- ①「やきもの いきもの」展 ②令和4年度新収蔵展
令和6年4月20日(土)～6月30日(日)
- ③「東海の陶造形」展、④令和4年度新収蔵展
令和6年7月13日(土)～9月29日(日)
- ⑤「Ways of Earth ハンガリー・日本陶芸作家交流展」
令和6年10月18日(土)～11月17日(日)
- ⑥「グローイング・プロジェクト 高校生とつくる居心地のよい場所」展
- ⑦コレクション・ハイライト
令和6年11月30日(土)～令和7年4月13日(日)

○成果

【特別展】

4本の特別展を開催。

- ①「うつわの大中小」展 [自主企画・コレクション展]
コレクションの作品を、器の大きさという観点から紹介した。
- ②「リサ・ラーソン」展 [巡回展]
スウェーデンのポピュラーな陶芸作家の仕事を多角的に紹介した。
- ③「生誕130年 荒川豊蔵」展 [自主企画]
岐阜ゆかりの伝統系の最重要陶芸作家を、絵画等も併せて紹介した。
- ④「人間国宝 加藤孝造 追悼展」 [自主企画]
岐阜ゆかりの伝統系の重要陶芸作家の全体像を紹介した。

【企画展（コレクション展・常設展）】

当館のコレクションの基本方針と魅力を紹介した。
また当館とハンガリーの国際交流の成果を発表した。
新しい試みとして、高校生とコラボする展覧会プロジェクトを行った。

指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>近現代の国内外の優れた陶芸文化を紹介する展示事業は、子どもや若い世代の感性を育てる教育的事業であるとともに、美術ファンを含む県民のニーズに対応する文化事業として重要である。また、地元陶磁器産業や作家等と連動し、その活性化に資する点で必要性が高い。</p>
<p>・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	<p>開館以来、多様な展示活動によって、世界の優れた陶芸を身近に鑑賞できる施設として認知されてきた。また、地域に根差した展示活動についても評価されている。さらに近年は、陶芸に隣接するジャンルの、工芸各種や絵画なども併せて紹介することに力を入れている。これらの点から、県民の多様なニーズに対応する事業展開において、成果は上がっている。</p>
<p>・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	<p>所蔵作品を特別展にも生かし、特別展の関連催事を魅力発信事業と連動させるなどして、準備面と予算面で効率を高めることを図っている。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 展示事業の計画に対して予算が不足がちであるが、魅力発信事業との連動などによる、効率化を一層工夫していく。 魅力的な展覧会を開催できるよう、多角的に検討していく。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 当館は陶芸専門の美術館として、地元根付きながら、国内外の様々な優れた陶芸作品の紹介に努めてきた。この事業展開には良い評価を重ねてきた。 近年は、陶芸を隣接ジャンルと関連付けて、広い視野から展示活動を行って欲しい、といったニーズにも応えている。 今後も当館の基本方針に基づきつつ、より斬新な視点で、県民をはじめ様々な人々の要望に応えるため、創意工夫を行っていく。 そのために、作家や作品について、情報収集と調査研究を更に進め、作品収集、展覧会事業、教育普及事業などに積極的に取り組む。さらに、地元の陶芸関係機関、陶磁器産業との連携や、国内と海外の陶芸関係機関との連携を強化していく。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【○○課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	